教育研究業績書

2025年05月07日

所属： 教育学科　　資格： 教授　　氏名： 磯部　美良

研究分野	研究内容のキーワード
教育心理学、発達心理学	社会的スキル、攻撃性，子育て支援，高齢出産・育児
学位	最終学歴
博士（心理学）	広島大学大学院 教育学研究科 教育人間科学専攻 博士課程後期　修了

教育上の能力に関する事項

事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
1.Googleクラスルーム等を活用した授業展開	2020年4月	新型コロナ感染拡大防止のための対応を通して，Googleクラスルーム，フォーム，パワーポイント動画（YouTube）といった技術の活用が可能となった。対面授業および欠席者課題において，引き続き，上記の技術を駆使した授業を行っている。
2.アクティブ・ラーニングに関する工夫	2014年4月～現在	保育と保護者支援のための知識と実践力を身に付けさせるために，グループ・ディスカッション，ロールプレイ，子育て経験者に対するインタビュー課題など，アクティブ・ラーニングを意識した授業を実施している。
3.視聴覚資料を活用した授業の実施	2014年4月～現在	パワーポイント，DVD，YouTube動画など，視聴覚資料を活用した授業を展開している。また，パワーポイントの配布資料については，キーワードを書き込み式にするなど，学生の注意力を高めるための工夫を行っている。
2 作成した教科書、教材		
1.教育学への招待	2015年4月	「教育学への招待」の教科書として作成。Part1のNote7（30-33頁）「女の子の攻撃性と仲間関係の心理学」を執筆。女子に多く見られるタイプの「いじめ」を防止する手立てについて論じた。武庫川女子大学出版部。
2.認知行動療法を活用した子どもの教室マネジメント―社会性と自尊感情を高めるためのガイドブック	2013年5月	Webster-Stratton（著）の第4章と第7章の翻訳を担当。「教育演習」の授業において，教育現場における子どもの問題行動への対処を心理学の視点から学ぶため，毎年，輪読している。金剛出版。
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		

職務上の実績に関する事項

事項	年月日	概要
1 資格、免許		
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1.放課後児童支援員認定資格研修　講師	2019年6月4日，7月5日	
2.放課後児童支援員認定資格研修　講師	2017年11月5日	
3.放課後児童支援員認定資格研修　講師	2016年5月20日	
4.兵庫県子育て支援員専門研修（放課後児童コース）講師	2016年3月26日	
5.放課後児童支援員認定資格研修　講師	2015年10月4日，12月6日	
4 その他		
1.学科教務委員	2020年4月～2022年3月	学科の教務委員として，ゼミ選択，コース選択，編入生の編入試験および履修指導等を行った。新型コロナ感染拡大の防止のため，各種説明資料や実施手段をweb化し，安全かつ効果的な取り組みを促進した。
2.西宮市義務教育諸学校教科用図書選定委員会委員	2019年7月	

研究業績等に関する事項

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
1.コンパス 教育相談	共	2022年3月	建帛社	住本克彦編著。「第6-２章ソーシャルスキルトレーニングの活用」を担当した。学校においてソーシャルスキルトレーニングを実施する際の基本的かつ重要な事項について，わかりやすく解説した。
2.子ども家庭支援・子育て支援入門	共	2021年11月10日	ミネルヴァ書房	才村純・芝野松次郎・新川泰弘編。「送迎場面を活用した子育て支援」の章を担当した。送迎場面を活用した子育て支援の重要性と基本姿勢について，様々な事例や演習課題を通して，解説した。
3.保育・幼児教育・子ども家庭福祉辞典	共	2021年6月	ミネルヴァ書房	保育者をめざす人のための用語辞典である。「いじめ」「ストレスマネジメント」「ストレスコーピング」「アンガーマネジメント」「カウンセリングマインド」「ストローク」の用語を担当した。
4.子ども家庭支援の心理学入門	共	2020年10月25日	ミネルヴァ書房	『子ども家庭支援の心理学入門』（大倉得史・新川泰弘編著）の第７章「子育て・仕事とライフコース」（99～112頁）の執筆を担当した。保育士養成課程における新教科目「子ども家庭支援の心理学」のための教科書であり、女性のライフコースの実態、仕事と子育ての両立を阻むもの、ワークライフバランスと子どもの育ちについて、データに基づいて解説した。
5.公認心理師スタンダードテキストシリーズ　発達心理学	共	2019年10月10日	ミネルヴァ書房	林創編。第8章「遊びと対人関係の発達」を担当した（92－103頁）。子どもの遊びと対人関係の意義，遊びの発達や分類，対人関係の発達（乳幼児期・児童期以降），および現代の子どもの遊びと対人関係における課題についてわかりやすくまとめた。
6.子ども家庭福祉専門職による子育て支援	共	2019年5月15日	ミネルヴァ書房	才村純・芝野松次郎・新川泰弘・宮野安治編。「保育所の送迎時における子育て支援」の章を担当した。送迎時における保護者支援のポイントを整理し，具体例を挙げながら，援助技術の解説をした。
7.カウンセリングにおけるアセスメントの原理と適用	共	2018年9月21日	金子書房	Susan C. Whiston（著)石川信一・佐藤 寛・高橋 史（監訳)の第８章「学力と適性のアセスメント：カウンセリングへの適用」の翻訳を担当。アセスメントの原理と幅広い適用領域が網羅されており，最先端の米国での実践と研究の知見が学習できるようになっている。
8.女の子の攻撃性と仲間関係の心理学	共	2015年4月	武庫川女子大学出版部	武庫川女子大学教育学科（監修）『教育学科への招待』のPart1のNote7（30-33頁）を担当。女子に多く見られるタイプの「いじめ」を防止する手立てについて論じた。
9.実践！ソーシャルスキル教育　幼稚園・保育園	共	2015年	図書文化社	佐藤正二（編）『実践！ソーシャルスキル教育』の第Ⅲ部②「攻撃的な行動を示す幼児へのソーシャルスキル指導」（136－145頁）を担当。仲間はずれや無視をする子どもを対象としたソーシャルスキル教育の実践事例を紹介した。
10.認知行動療法を活用した子どもの教室マネジメント―社会性と自尊感情を高めるためのガイドブック	共	2013年	金剛出版	Webster-Stratton（著）佐藤正二・佐藤容子（監訳）の第4章（65－82頁）と第7章（135頁―148頁）の翻訳を担当。本書は，子どものポジティブな行動に着目し，教師のやる気を引き出す現実的なマネジメント指導書となっている。
11.子どもの攻撃性	共	2012年	ミネルヴァ書房	深田博巳（監修）『教育・発達心理学（心理学研究の新世紀3）』の第9章（185－202頁）を担当。子どもの攻撃性，ジェンダー差の問題を取り上げ，子どもの攻撃行動に対する予防と対応について論じた。
12.攻撃的な子どもへのSST	共	2006年	金剛出版	佐藤正二・佐藤容子（編）『学校におけるSST実践ガイド―子どもの対人スキル指導』の第4章（52－64頁）を担当。子どもの攻撃行動の種類と特徴，発達，攻撃的な子どもへの社会的スキル指導の実際について論じた。磯部美良・前田健一著。
2 学位論文				
1.幼児期における関係性攻撃の低減要因の検討と介入プログラムの開発	単	2005年3月4日	広島大学大学院	関係性攻撃の研究を概観し、幼児期における関係性攻撃の低減要因について社会的スキルと仲間関係の観点から検討し、関係性攻撃を低減させるための介入プログラムを開発した。
3 学術論文				
1.大学におけるゼミの選択行動について（査読付き）	共	2023年3月（	武庫川女子大学教育学論集，18号	大学教育において，ゼミナールの選択は，学生の学びにとって非常に重要なプロセスの一つである。本研究では，教育学科３回生を対象とした質問紙調査を実施し，学生がどのような基準でゼミを選択しているのかを明らかにした。また，その結果を受け，今後のゼミ選択における指導のあり方について検討した。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
2.保育者養成校における子育て支援教育の教授法に関する検討（査読付）	単	2022年3月20日	武庫川女子大学教育学論集，17号，1-6.	本研究では，「保育・教育相談支援」を受講する学生に対し，保護者への共感的理解を引き出し，子育て支援の実践力を身に付けさせることを目的として，子育てインタビュー課題とロールプレイの創作を中心とした授業実践を行った。その結果，子育てインタビュー課題を通して，子育ての悩みや不安に関する“生の声”を聴くことで，保護者に対する共感的理解を促進することが明らかになった。また，ロールプレイを創作し，発表，鑑賞することにより，保育者と保護者双方の立場から，適切な子育て支援のあり方を模索，検討し，実行するという実践的な力を身につけることができることが示唆された。
3.平成30(2018)年度後期『教職実践演習(小)Ｂ』ガイダンス資料の作成と活用の試み―教職実践演習に統合化される教師教育プログラムのさらなる改善のために―	共	2019年3月25日	武庫川女子大学学校教育センター年報　第４号 P175-188.	前原健三・磯部美良・遠藤 純著。平成30年度後期に開講され、小学校教職課程を主専攻とする教育学科４年の履修者を対象とする『教職実践演習(小)Ｂ』の授業ガイダンス用資料を解説した。
4.Effect of a psychoeducational intervention on displaced aggression	共	2015年12月	島根大学教育学部紀要、第48巻（人文・社会科学）39-42頁	大学生を対象に、置き換えられた攻撃に対する心理教育的介入を実施し、効果を検討した。
5.宮崎県内の幼稚園・保育園における環境教育の実態調査（査読付）	共	2014年4月	南九州大学研究報告，第44，B巻，人文社会科学編，p. 47 - 54	宮崎県内の幼稚園・保育園等における環境教育の実施実態および環境教育を推進するにあたっての現場の課題やニーズについて検討した。磯部美良・遠藤晃著。
6.小学校における理科教育としての環境教育実践－児童自らの課題設定を促す指導法－	共	2014年4月	南九州大学人間発達研究，第4巻，p.6 - 13.	本研究では、自然の中に児童自らが課題を発見することから始まる問題解決学習を、ある小学校4年生（20名）の総合的な学習の時間で実践し、自然体験の中で児童がどのような疑問を感じてどのような問題を見いだすかを明らかにした。その結果、自然の中で、児童はそれぞれの経験・体験・知識に基づいて、自由な発想で課題と仮説を構築することが明らかになった。遠藤晃・磯部美良・坂元澄次著。磯部は実践補助を担当した。
7.Temperament styles of children from Japan and the United States: a cross-national study（査読付）	共	2012年7月	Educational Measurement and Evaluation Review, Vol. 3, 3-23	日米の児童・生徒（９歳～16歳）の子どもを対象に，外交的－内向的などの４つの観点から気質のあり方について比較検討した。Callueng, C., Carvalho, M. K. F., Isobe, M., & Oakland, T著。磯部は日本のデータ収集を担当した。
8.都城市立丸野小学校における身近な自然を活用した環境教育実践 ： 探求型学習が児童の理科リテラシーに与える効果について	共	2012年3月	南九州大学人間発達研究，2，23-30	都城市立丸野小学校において，4年生（16名）の総合的な学習の時間の単元「丸野をたんけんしよう」で，身近な自然環境を活用した探求型学習の実践研究を行った。テーマ設定から調査・研究，まとめ，発表までの過程をすべて児童主体で実践することで，他の授業も含めた学習態度や活動への意欲，生活態度にまで効果が認められた。遠藤晃・磯部美良・坂元澄次・大西眞由美著。磯部は実践補助，一部論文執筆を担当した。
9.S-HTP法を用いた幼児の描画発達に関する短期縦断的研究 ： 環境教育の効果測定法として	共	2012年3月	南九州大学人間発達研究，2，3-13	幼児期の子どもの心身の発達に対する自然を活かした環境教育の効果測定の手法の一つとしてS-HTP法を用いた描画検査法の有効性を探った。磯部美良・刀坂純子・井ノ上のぞみ著。第二著者以降は協力園の保育士である。
10.幼児用社会的スキル尺度（保育者評定版）の開発（査読付）	共	2011年10月	カウンセリング研究，44(3)，216-226	幼児用社会的スキル尺度（保育者評定版）を開発した。金山元春・金山佐喜子・ 磯部美良・岡村寿代・佐藤正二・佐藤容子著。磯部はデータを提供した。
11.子どもたちの「関係性攻撃」を向社会的	単	2011年7月	発達32(127) 26-33，ミネルヴァ書	子どもの関係性攻撃のメカニズムについて多角的に解説し，その対処のあり方を論じた。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
行動に変えていく（特集 子どもの悪と倫理）			房	
12.幼児用問題行動尺度（保育者評定）の改訂（査読付）	共	2011年	学校カウンセリング研究，12，25-32	保育者評定による幼児用問題行動尺度を開発した。金山元春・金山佐喜子・磯部美良・岡村寿代・佐藤正二・佐藤容子著。磯部はデータを提供した。
13.教育相談の一環としてのキャンプを通した宿泊学習の効果―発達障害のある児童を対象に	共	2009年12月	幼年教育研究年報，33，55-64.	大学における教育相談の一環として実施された発達障害のある児童を対象とした宿泊学習（キャンプ）の持ちうる効果を試行的に分析した。滝口圭子・寺田容子・柳優美・武澤友広・近藤武夫・磯部美良・落合俊郎著。磯部は一連の教育相談業務に携わっていた。
14.関係性攻撃を示す幼児に対する社会的スキル訓練（査読付）	共	2008年7月	行動療法研究，34，2，187-204.	本研究の目的は，関係性攻撃を顕著に示す年中女児1名を対象に，関係性攻撃の低減を目指して開発された社会的スキル訓練プログラムを実施し，効果を検討することであった。教師による評定と観察による評価の結果，関係性攻撃は有意に低減し，仲間関係の排他性に改善が見られたことが明らかとなった。磯部美良・江村理奈・越中康治著。第二著者以降は訓練協力者であった。
15.児童用社会的スキル尺度教師評定版の作成（査読付）	共	2007年9月	行動療法研究，32，105－115	本研究の目的は，児童の社会的スキルと問題行動を測定するための教師評定尺度を作成することであった。公立小学校65学級の担任教師に対して，担任する学級の全児童（小学校1－6年生，計1991名）の行動評定を依頼した。その結果，社会的スキル領域では5因子25項目，問題行動領域では2因子12項目が見出された。また良好な内的整合性と構成概念妥当性が確認された。磯部美良・佐藤正二・佐藤容子・岡安孝弘著。第二著者以降は論文指導を担当した。
16.大学生における攻撃性と対人情報処理の関連―印象形成の観点から（査読付）	共	2007年3月	パーソナリティ研究，14，　235-237	大学生を対象に，自らの攻撃性の高低によって，他者に対する印象形成に違いがみられるのかどうかを検討した。また外顕性攻撃と関係性攻撃の2種類の攻撃タイプを取り上げ，自分自身が示しやすい攻撃タイプや仮想人物の示す攻撃タイプが，その仮想人物に対する印象や評価に関係するかどうかも検討した。結果，攻撃性の高い個人は，自分と類似の攻撃を示す人物をポジティブに，自分とは異なる攻撃を示す人物をネガティブに捉える傾向を示すことが明らかとなった。磯部美良・縄田悠紀著。第二著者の修士論文を磯部が加筆修正した。
17.幼児の問題行動を測定するための保育者評定尺度の作成	共	2006年1月	パーソナリティ研究，15，290－300	本研究の目的は，保育現場で幼児の問題行動の個人差を測定するための保育者評定尺度を開発することであった。幼稚園・保育所40か所に所属する保育者100名に対し質問紙を実施すると同時に，幼児84名について行動観察を行った。結果として，外在化問題行動と内在化問題行動の2下位尺度からなる尺度が作成された。金山元春・中台佐喜子・磯部美良・岡村寿代・佐藤正二・佐藤容子著。磯部はデータを提供した。
18.攻撃の加害者と被害者の相互作用	共	2005年3月	幼年教育研究年報，27，73-79	本研究では，関係性攻撃の加害者及び被害者の行動特徴を明らかにし，関係性攻撃に対する保育者の対応方法について検討した。両者の最大の違いは，昼食時間や設定保育などある程度幼児の活動が外的に決められている時ではなく，幼児同士が自由に関わりあう自由遊び時間に多く見られた。畠山美穂・磯部美良・越中康治・山崎晃著。磯部は調査協力を行った。
19.非行少年と一般少年における社会的スキルと親和動機の関係（査読付）	共	2005年2月	カウンセリング研究，37，15－22	非行少年と一般少年の社会的スキル（向社会的スキル・引っ込み思案行動・攻撃行動）について2つの親和動機（親和傾向・拒否不安）の観点から検討した。非行群100名，一般の中学生105名を対象に，自己評定による質問紙調査を行った。主な結果として，非行少年は，「学級の仲間」に対しては，親和傾向が低いために社会的スキルを低いレベルで実行し，「遊び仲間」に対しては，親和傾向が高いために社会的スキルを高いレベルで実行することが示唆された。磯部美良・堀江健太郎・前田健一著。第二著者の卒業論文を磯部が加筆修正した。
20.大学生の精神的回復力とコーピング方略・落ち込みの検討	共	2004年3月	広島大学心理学研究，4，129-138	大学生に対し質問紙調査を実施し，精神的回復力（レジリエンス）が精神的健康の維持にとって重要な要因であることを確認した。目久田純一・武田さゆり・磯部美良・江村理奈・新見直子・前田健一著。磯部は論文指導を担当。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
21.Behavioral orientation and peer contact pattern of relationally aggressive girls（査読付）	共	2004年2月	Psychological Reports, 94, 327-334	自由遊び場面において幼児の行動観察を実施し，関係性攻撃児（8名）と非攻撃児（8名）の比較を通して，関係性攻撃児の仲間関係や仲間との相互作用にみられる特徴を検討した。その結果，関係性攻撃児は仲間集団内で特定の二者関係を形成し，社会的会話に多くの時間を費やす傾向にあることがわかった。Isobe, M., Carvalho, M. K. F., & Maeda, K著。第二著者以降は論文指導を担当。
22.子どもの怒り経験と怒り表出に関する研究－親に怒りを感じた場合について－	共	2003年7月	広島大学大学院教育学研究科紀要第三部，52，253-258	小・中学生を対象に質問紙調査を実施し，親に怒りを感じた場合の怒りの表出対象とその方法，表出後の気分を検討した。磯部美良・中村多見・江村理奈著。第二著者の修士論文を磯部が加筆修正した。
23.幼児の関係性攻撃と社会的スキル（査読付）	共	2003年3月	教育心理学研究，51，13-21	年中児と年長児の計362名の攻撃行動と社会的スキルについて，教師評定により査定した。その結果，関係性攻撃を示す幼児は，規律性スキルに欠けるが，友情形成や主張性のスキルは比較的優れていることが明らかになった。また関係性攻撃群の男児は友情形成スキル全般が優れているのに対し，女児は友情形成スキルが一部欠けていることが見出された。磯部美良・佐藤正二著。第二著者は論文指導を担当。
24.社会的スキルの顕著に低い中学生に対する集団社会的スキル教育の効果	共	2003年3月	広島大学心理学研究，3，117-126	顕著に社会的スキルの低い生徒に対して集団的社会的スキル教育が及ぼす影響を事例的に検討した。江村里奈・磯部美良・岡安孝弘・前田健一著。磯部は論文指導を担当。
25.幼稚園女児に見られる関係性攻撃の被害者の行動特徴に関する研究－幼稚園での観察を通して－	共	2002年7月	広島大学大学院教育学研究科紀要第三部，51，343-349	関係性攻撃の被害を受け，孤独感の高い年長女児2名を対象に行動観察を実施し，社会的行動や仲間関係の特徴について検討を行なった。畠山美穂・磯部美良・越中康治・蔡佳玲著。磯部は調査協力をした。
26.幼児の関係性攻撃と社会的スキルに関する短期縦断的研究	単	2002年7月	広島大学大学院教育学研究科紀要第三部，51，245-249	幼児120名を対象に年中から年長にかけての約半年間にわたる短期縦断的調査を実施し，関係性攻撃と社会的スキルの関係を時系列的に検討した。
27.大学生世代と親世代の羞恥感情の比較検討	共	2002年3月	広島大学心理学研究，2，141-149	大学生と親世代における羞恥感情の領域による違いや世代間格差感の特徴等について検討した。磯部美良・小谷梓・前田健一著。第二著者の卒論を磯部が加筆修正した。
28.子どもの関係性攻撃に関する研究の展望	単	2001年7月	広島大学大学院教育学研究科紀要第三部，50，379-386	子どもの関係性攻撃に関する国内外の論文をレビューした。
29.子どもと青少年の問題行動と暴力に対する許容態度	共	2001年3月	広島大学心理学研究，1，139-150	暴力行為に対する小・中学生の許容的態度の相違によって，体験欲求や善悪判断等に違いが見られるかどうかを検討した。山口修司・越中康治・中村多見・磯部美良・金山元春・前田健一著。磯部は調査実施の協力をした。
その他				
１．学会ゲストスピーカー				
２．学会発表				
1.絆を破壊する行動―関係性攻撃20年の展望―	共	2015年9月23日	日本心理学会第79回大会名古屋国際会議場	自主シンポジウム『絆を破壊する行動―関係性攻撃20年の展望―』の指定討論者として登壇した。
2.持続可能性のための教育を実践できる保育者養成を考える	共	2013年5月	日本保育学会第66回大会，中村学園大学	自主シンポジウムの話題提供者として，学生の主体性を引き出す「場」としての環境教育について所属大学の教育実践を報告した。
3.保育士養成課程の学生の現状と実践的学びの重要性について	共	2013年3月	第24回日本発達心理学会大会，明治学院大学	自主シンポジウムの話題提供者として，保育者養成における発達心理学の役割について議論した。
4.S-HTP法を用いた幼児の描画発達に関する短期縦断的研究―環境教育の効果測定法	共	2012年11月	日本教育心理学会第54回総会，琉球大学	年長児22名を対象として，２か月に１度のペースで４回にわたり，S-HTP法を用いた描画検査に参加してもらった。その結果，表現上は拙いものの，子どもたちは，自分たちの経験を絵の中に表現することが可能であることが明らかとなった。今後は，保育環境の異なる

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
として				幼児の比較をとおして，環境教育の効果測定法としてのS-HTP法の有効性をさらに探る必要がある。磯部美良・刀坂純子・井ノ上のぞみ著。
5.保育者養成と教員養成をつなぐ心理学研究・実践	共	2012年11月	日本教育心理学会第54回総会，琉球大学	保育者・教員養成に携わる教員が各自の研究と実践例を紹介し，保育者と教員の養成をつなぐ上で心理学がいかに寄与し得るかについて議論した。本自主シンポジウムには指定討論者として参加した。
6.A cross cultural assessment of the relationship between epistemic metacognition	共	2012年7月	The 12th European Congress of Psychology, Istanbul, Turkey	日本の学生とフィリピンの学生を対象にして，認識論的メタ認知と批判的思考の関連を査定した。その結果，従来のメタ認知研究で扱っている定義よりも，認識論的メタ認知として概念を拡大することにより，メタ認知と、批判的思考行動の様々な側面との関連がより良く説明できることが明らかとなった。 Carvalho, M. K. F・Isobe, M著。磯部は論文指導を担当した。
7.Using S-HTP method to evaluate the effectiveness of environmental education	単	2012年7月	30th International Congress of Psychology, Cape Town South Africa	幼児期の子どもの心身の発達に対する自然を活かした環境教育の効果測定の手法の一つとしてS-HTP法を用いた描画検査法の有効性を探った調査研究について報告を行った。
8.The state of affairs of psychological testing in Japan	共	2010年7月	27th International Congress of Applied Psychology, Melbourne, Australia	自主シンポジウム‘Trends in test development and use in countries with emerging test practices and portfolio’において話題提供を行った。Carvalho, M. K. F & Isobe, M著。発表は第一著者が行った。
9.Relationship among social skills, social intelligence, and relational aggression of preschool children	単	2009年7月	The 11th European Congress of Psychology, Oslo, Norway	幼児の関係性攻撃，社会的スキル，社会的インテリジェンスの関連について調べた。その結果，関係性攻撃を頻繁に示す幼児ほど，仲間関係に関する知識が豊富であることが示された。
10.幼児期の関係性攻撃と社会的知識の関連	単	2008年10月	日本教育心理学会第50回総会，東京学芸大学	年長児66名を対象に，社会的知識（仲間関係・仲間の好きな遊び）に関してたずねる面接調査を実施した。その結果，関係性攻撃を頻繁にする幼児は仲間関係に関する知識に優れていることが明らかとなった。
11.攻撃的な子どもの抱える「問題」を考える	共	2008年10月	日本教育心理学会第50回大会，東京学芸大学	自主シンポジウムの企画者，話題提供者として，昨今の攻撃研究の特徴をまとめ，攻撃的な子どもへの対処のあり方について検討した。
12.The relationship between relational aggression and social intelligence of preschool children	単	2008年7月	29th International Congress of Psychology, Berlin, Germany	幼児を持つ夫婦1,024名と保育者37名を対象に質問紙調査を実施し，親の養育と子どもの関係性攻撃の関連を調べた。その結果，関係性攻撃の高い子どもの母親は心理的コントロールを頻繁に行っていることが明らかとなった。
13.Metacognitive processing in different types of tests	共	2007年11月	28th Annual Conference of the Society for Judgment and Decision Making, Long Beach, USA	学生を対象に，テスト形式，メタ認知能力および学業成績が回答に対する確信度とその正確さに与える影響を実際の教室場面を用いて検討した。Carvalho, M. K. F・Isobe, M著。磯部は論文指導を担当した。
14.夫婦間の葛藤行動と子どもの関係性攻撃との関連		2007年9月	日本教育心理学会第49回総会，文教大学	幼児を持つ夫婦1,024名と保育者37名を対象に質問紙調査を実施し，夫婦間の葛藤行動と子どもが幼稚園で示す攻撃行動（関係性攻撃と外顕性攻撃）との関連について検討した。
15.発達領域における攻撃研究の新展開－いじめ問題を意識して最新の関係性攻撃研究をみる	共	2007年9月	日本心理学会第71回大会，東洋大学	ワークショップの話題提供者として，幼児期の関係性攻撃に関する国内外の研究を紹介し，今後の課題について論じた。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
16.The relationship between parenting skills and preschoolers' relational aggression	共	2007年7月	World Congress of Behavioral and Cognitive Therapies, Barcelona, Spain	幼児の両親1024名と保育者37名を対象に調査を実施し，親の養育スキルと子どもの関係性攻撃，外顕性攻撃の関連を検討した。Isobe, M., & Carvalho, M. K. F著。第二著者は論文指導を担当した。
17.子どもの関係性攻撃とその介入プログラムの開発	単	2006年11月	日本心理学会第70回大会，九州大学	小講演として，子どもの関係性攻撃に関する研究の動向を紹介しながら，幼児期の関係性攻撃の低減要因の検討と介入プログラムの開発に関する一連の研究の成果を報告した。
18.幼児期の関係性攻撃と親の養育スキルの関連	単	2006年9月	日本教育心理学会第48回総会，岡山大学	幼児を持つ夫婦1,024名と保育者37名を対象にアンケート調査を実施し，親の養育スキルと子どもの攻撃行動（関係性攻撃と外顕性攻撃）の関連について検討した。
19.School-wide social skills training in a Japanese junior high school (3)	共	2006年7月	World Congress of Behavioral and Cognitive Therapies, Kobe, Japan	中学校で集団的社会的スキル訓練を実施し，効果を検討した。Emura, R., Kanayama, M., Nakadai, S., Niimi, N., Isobe, M., & Maeda, K.著。磯部は訓練の協力をした。
20.Impression formation in relational and overt aggression of Japanese university students	共	2006年7月	26th International congress of applied psychology, Athens, Greece	大学生に対して質問紙調査を実施し，彼らの攻撃性（関係性攻撃と外顕性攻撃）と印象形成との間に関連があるかどうかを検討した。Isobe, M・Nawata, Y著。第二著者の修論を磯部が加筆修正した。
21.The marital conflict on children's behavior problems in Japan	共	2006年5月	18th Annual convention of association for psychological science, New York, U.S.A	幼児を持つ夫婦1024名と保育者37名を対象にアンケート調査を実施し，夫婦間の葛藤行動と彼らの子どもが幼稚園で示す攻撃行動（関係性攻撃と外顕性攻撃）との関連について検討した。Isobe, M., & Carvalho, M. K. F著。第二著者は論文指導を担当した。
22.Differences in student's metacognitive processes in individual and collaborative tests	共	2006年5月	18th Annual convention of association for psychological science, New York, U.S.A	大学生を対象に，個別テストと協同的テストを実施し，こうしたテスト形式が彼らのメタ認知や成績にどのような影響を与えるかを検討した。Carvalho, M. K. F., & Isobe, M.著。磯部は論文指導を担当した。
23.Inhibition of relationally aggressive behavior in preschool: A case study	共	2006年1月	International symposium on inhibitory processes in the mind, Kyoto, Japan	関係性攻撃を顕著に示す女児1名に対する社会的スキル訓練について，その効果を詳細に検討した。Isobe, M., Emura, R., & Ecchu, K著。磯部以外は訓練協力者であった。
24.子どもに対する認知行動療法の実践	共	2005年10月	日本行動療法学会第31回大会	シンポジウムの話題提供者として，関係性攻撃の低減を目指した介入プログラムの開発について報告した。
25.テスト形式，メタ認知能力および学業成績が回答に対する確信度とその正確さに与える影響	共	2005年9月	日本教育心理学会第46回総会，富山大学	大学生を対象に，テスト形式，メタ認知能力および学業成績が回答に対する確信度とその正確さに与える影響について，実際の教室場面を用いて検討した。磯部美良・Carvalho, M. K. F著。磯部が発表論文を執筆した。
26.大学生の攻撃性と他者認知	共	2005年9月	日本教育心理学会第47回総会，浅井学園大学	学生に対して質問紙調査を実施し，彼らの攻撃性（関係性攻撃と外顕性攻撃）と印象形成との間に関連があるかどうかを検討した。磯部美良・縄田悠紀著。第二著者の修士論文を磯部が加筆修正した。
27.幼児期における心の理論，感情理解と関係性攻撃との関連	共	2005年9月	日本教育心理学会第47回総会，浅井学園大学	幼児137名を対象に，面接法によって心の理論課題と感情理解課題を実施し，それらの結果と彼らが幼稚園で示す関係性攻撃（教師評定による質問紙）との関連を検討した。森野美央・磯部美良著。磯部は調査に協力した。
28.Classroom-based social skills	共	2004年10月	11th The Congress of the	中学生を対象として教室単位で集団的社会的スキル訓練を実施し，効果を検討した。Emura, R., Isobe, M., & Maeda, K著。磯部は論

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
education in a Japanese junior high school			Asian College of Psychosomatic Medicine, Okinawa, Japan	文指導を担当した。
29.学習障害等の児童を対象とした作業記憶テストーリスニングスパンのエラー分析－	共	2004年9月	日本心理学会第68回大会，関西大学	LD等を持つ児童象に作業記憶テストを実施し，リスニングスパンエラーについて検討した。小坂圭子・寺田容子・今塩屋優美・磯部美良・武澤友広・近藤武夫。磯部は調査協力をした。
30.Social skills training for a relationally aggressive preschool girl	共	2004年8月	28th International Congress of Psychology, Beijing, China	関係性攻撃を顕著に示す女児に対して，社会的スキル訓練を実施し，効果を検討した。Isobe, M., & Carvalho, M. K. F著。第二著者は論文指導を担当した。
31.関係性攻撃を示す幼児の仲間関係の特徴	単	2004年3月	日本発達心理学会第14回大会，兵庫教育大学	関係性攻撃を示す女児8名とそうでない女児8名の仲間関係の構造と行動特性を行動観察によって比較検討した。
32.LD等の児童を対象とした教育相談の事例研究（3）－教育相談場面と学校場面における社会的スキルの変化－	共	2004年3月	日本発達心理学会第15回大会，白百合女子大学	教育相談に通うLD児等を対象に，教育相談場面と学校場面における社会的スキルの変化を時系列的に検討した。磯部美良・寺田容子・今塩屋優美・武澤友広・近藤武夫・小坂圭子著。磯部が質問紙作成，論文執筆を担当した。
33.幼児用社会的スキル尺度の開発の試み	共	2003年11月	日本行動療法学会第28回大会，東京大学	教師評定による幼児用の社会的スキル尺度を作成した。金山元春・磯部美良・佐藤正二・佐藤容子著。磯部はデータ提供をした。
34.LD等の児童を対象とした教育相談の事例研究（1）：グループでの遊び活動を活かした社会性を育てる指導の実際	共	2003年11月	日本LD学会第12回大会，福岡教育大学	LD児等を対象に実施した教育相談について事例的な検討を行なった。寺田容子・今塩屋優美・武澤友広・磯部美良・近藤武夫・小坂圭子著。磯部は教育相談員として活動に参加した。
35.LD等の児童を対象とした教育相談の事例研究（2）：作動記憶テストによる効果の検討	共	2003年11月	日本LD学会第12回大会，福岡教育大学	教育相談に通うLD児等を対象に，教育相談の介入効果を作動記憶の観点から検討した。寺田容子・今塩屋優美・武澤友広・磯部美良・近藤武夫・小坂圭子著。磯部は調査協力をした。
36.Behavioral orientation and peer contact pattern of relationally aggressive girls	共	2003年8月	Asian Association of Social Psychology, 5th Biennial Conference, Manila, Philippines	関係性攻撃を示す女児8名とそうでない女児8名の仲間関係の構造と行動特性を行動観察によって比較検討した。Isobe, M., Carvalho, M. K. F., & Maeda, K著。第二著者以降は論文指導を担当した。
37.幼児の関係性攻撃と社会的情報処理過程	単	2003年8月	日本教育心理学会第45回総会，大阪教育大学	幼児54名に対して紙芝居を用いた面接調査を実施し，関係性攻撃を示す幼児の社会的情報処理過程の特徴について検討した。
38.幼児の関係性攻撃による被害者の行動特徴	共	2003年8月	日本教育心理学会第45回総会，大阪教育大学	関係性攻撃の被害を受ける幼児の行動と仲間関係の特徴について，量的，質的に検討した。畠山美穂・磯部美良・越中康治・蔡佳玲著。磯部は調査に協力した。
39.関係性攻撃を示す幼児に対する社会的スキル指導	共	2003年3月	日本発達心理学会第17回大会，九州大学	関係性攻撃を顕著に示す女児1名に対して，社会的スキル訓練を実施し，効果を検討した。磯部美良・江村理奈・越中康治著。第二著者以降は訓練協力者である。
40.非行少年と一般少年の社会的スキルと親和動機の関係	共	2002年10月	日本教育心理学会第44回総会，熊本大学	非行少年と一般少年が「遊び仲間」と「学級の仲間」に対して示す社会的スキルの違いを親和動機の観点から検討した。磯部美良・堀江健太郎・前田健一著。第二著者の卒業論文を磯部が加筆修正した。第三著者は論文指導を担当した。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
41.関係性攻撃の対象となる幼児の行動特徴	単	2002年3月	日本発達心理学会第13回大会，早稲田大学	幼児362名について保育者18名に質問紙調査を実施し，関係性攻撃の被害を受ける幼児の社会的スキルの特徴を検討した
42.関係性攻撃の発達	共	2001年11月	日本中国四国心理学会第57回大会，安田女子大学	小学校の教師に対して質問紙調査を実施し，関係性攻撃の発達変化を横断的に調べた。磯部美良・前田健一著。第二著者は論文指導を担当した。
43.幼児の関係性攻撃と社会的スキルに関する縦断的研究	共	2001年9月	日本教育心理学会第43回総会，愛知教育大学	幼児120名を対象に年中から年長にかけての約半年間にわたる短期縦断的調査を実施し，関係性攻撃と社会的スキルの関係を時系列的に検討した。磯部美良・佐藤正二著。第二著者は論文指導を担当した。
44.児童用社会的スキル尺度の作成	共	2001年8月	日本行動療法学会第27回大会，琉球大学	教師評定による児童用の社会的スキル尺度を作成した。磯部美良・岡安孝弘・佐藤容子・佐藤正二著。第二著者以降は論文指導を担当した。
45.幼児の関係性攻撃と社会的適応	共	2000年9月	日本教育心理学会第42回総会，東京大学	幼児362名について保育者18名に質問紙調査を実施し，関係性攻撃を示す幼児の社会的スキルや適応状態を検討した。磯部美良・佐藤正二著。第二著者は論文指導を担当した。
３．総説				
４．芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
５．報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
1.全国保育士養成協議会	共	2019年8月30日	全国保育士養成セミナー	分科会「子ども家庭福祉専門職による子育て支援を考える」において，「保育士養成校における子育て支援教育」について話題提供を行った。
2.３歳児保育	単	2013年4月	第43回九州保育団体合同研究集会宮崎集会報告集，69-70	第43回九州合研の分科会「３歳児保育」の報告である。
3.環境教育センター第1回講演会（Mカフェ1）世界一幸せな国デンマークの教育に学ぶ	共	2013年3月	南九州大学人間発達研究，2，185－196	南九州大学人間発達学部附属環境教育センター主催の講演会の記録である。磯部美良・加藤幸夫著。
4.土・農・食を中心にすえた『子どもの生活づくり』－地域と自然をつなぐ保育の場（Mカフェ３）	共	2013年3月	南九州大学人間発達研究，3，89－100	南九州大学人間発達学部附属環境教育センター主催の講演会の記録である。磯部美良・成富清美著。
5.メタ認知の多面性：学習過程におけるモニタリングと制御		2012年3月	ミネルヴァ書房	深田博己・湯澤正通（編）『教育・発達心理学』の第18章（Moises Kirk de Carvalho Filho著，384－398頁）の翻訳を担当した。 ※その旨は謝辞に記載。
6.デンマーク『森の幼稚園』視察報告	単	2011年3月	南九州大学人間発達研究，1，77－78	幼児期における環境教育（保育）の在り方について検討するため，デンマークの『森の幼稚園』や教員養成大学を訪ねた際の視察報告である。
7.環境教育センター活動報告	単	2011年3月	南九州大学人間発達研究，1，79－80	南九州大学人間発達学部附属環境教育センターの年間活動報告である。遠藤晃・磯部美良著。
8.沖縄県の小学校における学生ボランティア活動	共	2011年3月	南九州大学人間発達研究，1，81－88	南九州大学人間発達学部附属環境教育センターの関連事業として学部学生による「沖縄の小学校視察ならびにボランティア活動」を実施した際の報告である。遠藤晃・磯部美良著。
9.メタ記憶と社会・文化		2009年1月	北大路書房	清水寛之（編）『メタ記憶：記憶のモニタリングとコントロール』の第8章（Moises Kirk de Carvalho Filho著，137－152頁，253－256頁）の翻訳を担当した。 ※その旨は謝辞に記載。
10.ブラジルの教育：多様性の国における希望		2008年4月	行路社	富野幹雄（編）『グローバル化時代のブラジルの実像と未来』の第９章（Moises Kirk de Carvalho Filho著，163－185頁）の翻訳を担当した。 ※その旨は謝辞に記載。
11.女の子の攻撃性：関	単	2007年10月	愛知淑徳大学ジェ	愛知淑徳大学ジェンダー・女性学研究所のニュースレターにおい

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
５．報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
係性攻撃について考える			ンダー・女性学研究所	て，関係性攻撃に関する研究成果の紹介をした。
６．研究費の取得状況				
1.幼児期における環境教育が子どもの心身の発達に与える影響	単	2010年5月から4年間	科学研究費補助金若手研究B	
2.関係性攻撃の形成メカニズムの解明と介入プログラムの開発に関する理論的・実践的研究	単	2005年4月から3年間	科学研究費補助金特別研究員奨励費	

学会及び社会における活動等	
年月日	事項
1.2010年12月～現在	日本環境教育学会
2.2005年9月～現在	日本パーソナリティ学会
3.2002年4月～現在	日本心理学会
4.2001年4月～現在	日本発達心理学会
5.2001年3月～現在	日本行動療法学会
6.2000年6月～現在	日本カウンセリング学会
7.2000年3月～現在	日本教育心理学会